

WEST[Help](#)[Logout](#)[Main Menu](#) [Search Form](#) [Result Set](#) [Show S Numbers](#) [Edit S Numbers](#)[First Hit](#)[Previous Document](#)[Next Document](#)[Full](#) [Title](#) [Citation](#) [Front](#) [Review](#) [Classification](#) [Date](#) [Reference](#) [Claims](#) [IOMC](#)

Entry 210 of 413

File: JPAB

May 16, 1989

PUB-NO: JP401122708A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 01122708 A

TITLE: SPIKE TIRE POSSIBLE TO BE MANUALLY CHANGED OVER

PUBN-DATE: May 16, 1989

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

IWAMA, TERUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

IWAMA TERUO N/A

APPL-NO: JP62281535

APPL-DATE: November 7, 1987

INT-CL (IPC): B60C 11/16

ABSTRACT:

PURPOSE: To make it possible be a tire as both spike tire and a normal tire by embedding pin in the inside of crests of the tire, and by charging and discharging air through a valve so as to extend and retract the pins from and into the tire crests.

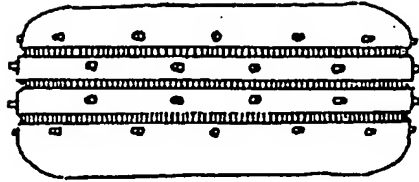
CONSTITUTION: Pins B are embedded in the inside of crests A of a tire, and secured in air holes C, and air is charged and discharged through a valve D. The pins B are pushed up by charged air from the valve D, and are extended from the tire crests A so as to prepare a spike tire. Meanwhile, when air is discharged through the valve D, a tube contracts so that the pins B are retracted into the tire crests A to prepare a normal tire.

COPYRIGHT: (C)1989,JPO&Japio

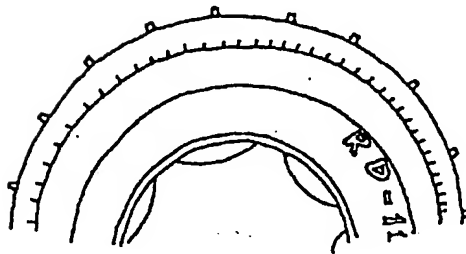
[Main Menu](#) [Search Form](#) [Result Set](#) [Show S Numbers](#) [Edit S Numbers](#)[First Hit](#)[Previous Document](#)[Next Document](#)[Full](#) [Title](#) [Citation](#) [Front](#) [Review](#) [Classification](#) [Date](#) [Reference](#) [Claims](#) [IOMC](#)[Help](#)[Logout](#)

BEST AVAILABLE COPY

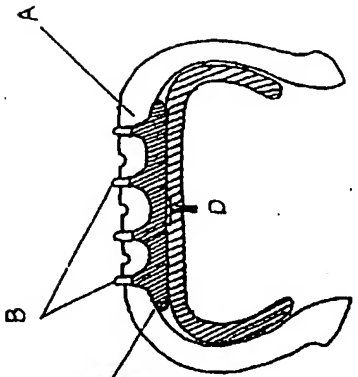
第1図



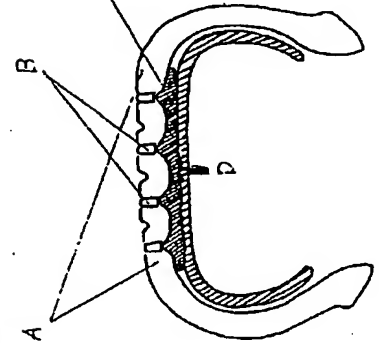
第2図



第4図



第3図



様式5 (願書、明細書、図面等の補正をする場合)

手続補正書(方式)

昭和63年3月2日
昭和63年3月2日

特許庁長官殿

1. 事件の表示 昭和62年特許願第281535号
2. 発明の名称 手動操作による自在使用スパイクタイヤ
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
住所(居所) 静岡県三戸郡 名川町 御西 大切13-37
氏名(名称) イフ マ テル オ 株式会社
4. 代理人
住所(居所)
氏名(名称) 株式会社
5. 補正命令の日付(発送日) 昭和63年2月3日
6. 補正の対象 明細書 発明の名称の欄
7. 補正の内容 明細書の発明の名称を「手動操作による自在使用スパイクタイヤ」と補正する

特許庁
3.7.23

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平1-122708

⑮ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)5月16日

B 60 C 11/16

7634-3D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 手動操作による自在スパイクタイヤ

⑯ 特 願 昭62-281535

⑰ 出 願 昭62(1987)11月7日

⑱ 発 明 者 岩 間 照 雄 青森県三戸郡名川町剣吉大坊13-37

⑲ 出 願 人 岩 間 照 雄 青森県三戸郡名川町剣吉大坊13-37

明 細 書

1. 発明の名称

手動操作による自在スパイクタイヤ

2. 特許 請求の範囲

スパイクピン用空気孔に空気を充てん又は、抜き去ることにより、ピンをタイヤ外周上部に突出、又は埋没させ、スパイクタイヤと平常タイヤとの 両用にするタイヤ

3. 発明の詳細な説明

この発明は、従来時 にはスパイクタイヤとして使用し、平常路においては手動により、直ち に普通タイヤとして使用することが可能になるタイヤである。

イ。即ち、スパイクピン取り付け孔に、空気を充てんすることにより孔 がふくらみ、チューブが ピンを押し上げスパイクタイヤとなるものである。

ロ。又、スパイクピン用バルブをゆるめ、空気を抜くことにより、チューブが下降し、ピン が、タイヤ山 に埋没し

普通タイヤとなる。

従来のスパイクタイヤは ピンを除去すると再使用が困難であつた

本発明は、この欠点を除くために発明されたものであり、普通 タイヤとスパイクタイヤとを手 動によりいつでも両用に使

用可能にするものである。

これを図面について説明すれば、

イ。図3

タイヤ山A. の中にピンB を埋め、空気孔C. に固定する。
バルブD. より空気を注入する。

ロ。図4

D より注入された空気が、C において、ピンB を押し上げ、A. のタイヤ山より上方に突出し、スパイク タイヤとなる。

4. 図面の簡単な説明。

第1図は、 スパイクタイヤ時の正面図

第2図は、 スパイク タイヤの側面図

第3図は、 空気除去中の普通タイヤ 側面図

第4図は、 空気充てん時スパイクタイヤ 新側面図

特許出願人 岩間 照雄